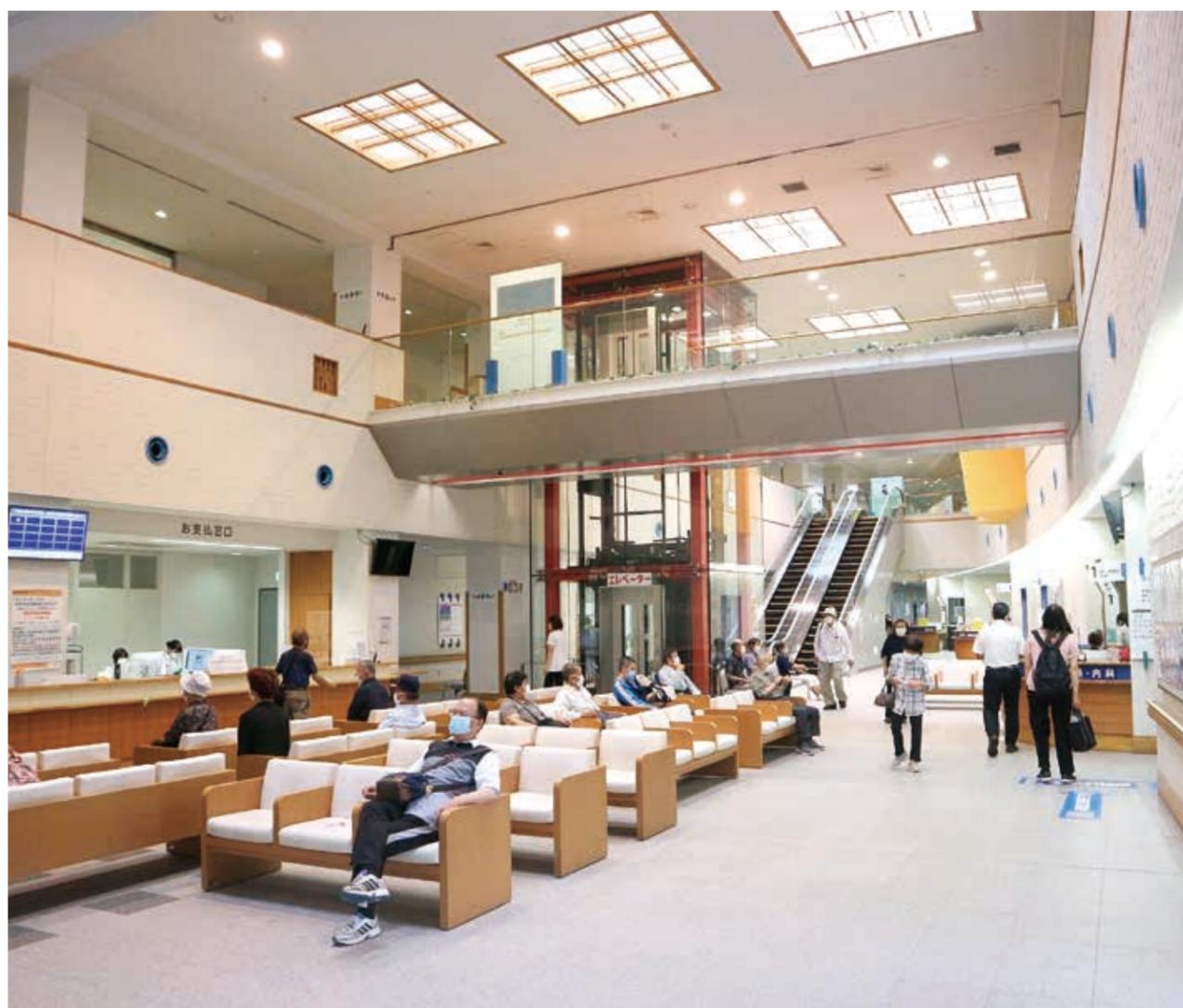


# 地域医療 連携だより

Vol.2  
2020 summer



特集

## 最新の科学的知見をもとにした治療を すべての方に届ける (血液内科)

輸血機能評価認定制度施設として認定されました。

TAKE FREE

多野藤岡医療事務市町村組合 公立藤岡総合病院 広報誌 地域医療連携だより 発行: 公立藤岡総合病院 経営管理部 企画財政課

## News

### 公立藤岡総合病院敷地北側の 入口を開放しました

これまで、公立藤岡総合病院敷地北側の入口は一般車両の進入を禁止していましたが、7月1日より一般車両の入口専用として開放しました。

敷地内の安全のため、北側入口からの進路は一方通行となります。お帰りの際は、これまでどおり東側へ退出をお願いします。



お問い合わせ 公立藤岡総合病院 安全管理センター施設管理グループ ☎0274-22-3311(代表)

### 藤岡多野発熱センターが開設されました

新型コロナウイルス感染の第2波、第3波に対応するため、隔離した場所で受付・診療を行う藤岡多野発熱センターが藤岡多野医師会の協力を得て、公立藤岡総合病院敷地内に開設されました。

発熱センターを受診しPCR検査の必要があると診断された場合には、市内の帰国者・接触者外来と連携し検査を実施します。

- 対象者** 中学生以上の発熱を伴う患者(妊婦を除く)
- 設置場所** 公立藤岡総合病院 駐車場北西部
- 予約時間** 月～金曜日の午前9時～11時(祝日を除く)
- 診察予約** ☎080-5877-5884
- 診察時間** 月～金曜日の午後1時30分～2時30分  
完全予約制(祝日を除く)



藤岡市ホームページ



お問い合わせ 藤岡市健康づくり課 ☎0274-40-2808

## Event guide

### 糖尿病教室開催のお知らせ

糖尿病について勉強する教室を開催します。  
糖尿病治療中の患者さん、ご家族など参加をお待ちしております。

- 開催日** 令和2年9月16日(水)
- 時間** 午後1時30分(開場)午後2時(開演)
- 場所** 公立藤岡総合病院 入院棟2階大会議室
- 参加費** 無料
- 定員** 20名程度(予約制)

内容

- ①運動で守るあなたの血管(講師:理学療法士)
- ②家の中で出来る運動(講師:理学療法士)
- ③家で出来る簡単レシピ(講師:管理栄養士)



※当地域において新型コロナウイルス感染症が拡大した際は、開催中止とさせていただきます。  
予めご了承ください。

お申込み・お問い合わせ 公立藤岡総合病院 患者支援センター 松本 ☎0274-22-3311(代表)



# 特集

## 最新の科学的知見をもとにした治療を すべての方に届ける

### 公立藤岡総合病院 血液内科

公立藤岡総合病院では、群馬県全域及び埼玉県北部の二次医療圏を超えた範囲からの血液疾患症例を受け入れ、他科と連携を図り、他の病院では対応できない数多くの合併症を持った患者に対応しています。

今回は、複雑化する血液内科の最新治療等について血液内科部長の外山耕太郎医師にお話を伺いました。

#### 血液内科とはどのような科ですか

血液内科では急性白血病のような造血器腫瘍や、急激な出血症状を伴う免疫性血小板減少症などの非腫瘍性疾患など様々な疾患を形態学、免疫学、遺伝子学を駆使して診断を行い、その人に最良の治療を届けることを目標としています。日本造血器腫瘍ガイドラインが2年

という異例の速さで5月に補訂がなされ、NCCNのガイドラインは数か月ごとに更新されるなど、その進歩の速さに遅れないように研鑽を積むことが、我々に課された使命と考えながら診療にあたっています。

#### I&A認定について

本邦では少子高齢化に伴う輸血ドナーの不足が懸念されています。それに追い打ちをかけるように、COVID-19によって献血の機会さえ奪われており、必要な人に限りある輸血を届けるためには、輸血製剤の適正使用はまさに急務といえます。また、製剤間違えはもとより不適切な製剤の取り扱いによる細菌汚染などのミスを防ぐなど、安全な輸血医療を行うことも無視できません。当院では輸血の適正使用、安全性を見直す

ために輸血の体制、マニュアルの大改訂を行い、日本輸血・幹細胞治療学会のI&A審査を受審し、この4月に認定をいただきました。

#### 当院での治療など

血液内科病棟では無菌管理区域を備え、その中に層流装置を備えたクラス5の個室を3床、クラス7以上を有する個室2床と4床室2部屋を有している群馬県内でも最新の設備を備えています。

#### 地域の医療機関へのメッセージ

血液内科の診療は、採血結果から診療が始まります。そのため、患者さんは採血結果が出るまでの待ち時間が必ず生じてしまいます。そのため、患者支援センターを通じての予約取得をお願いしています。その際に患者さんの状態が予め分かっていると、多様な検査への対応が迅速に行えますので、お手数ですが予め紹介内容（できれば検査結果含めて）をFAXなどでご連絡いただけると患者さんの利益になるため、申し訳ございませんが一手間おかけいただければと思います。



## 血液内科

### ■スタッフ体制

部長／外山耕太郎(トヤマ コウタロウ)  
医長／石川 哲也(イシカワ テツヤ)  
医員／塚田 明彦(ツカダ アキヒコ)  
杉崎 真人(スギサキ マナト)  
成澤由起子(ナルサワ ユキコ)



### ■2019年度 新規症例

疾患	症例数
急性白血病	7
骨髄異形性症候群	12
悪性リンパ腫	48
形質細胞性腫瘍	14
骨髄増殖性疾患	17
芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍	1
その他	26
合計	125
自家末梢血幹細胞移植	2

# 地域医療支援病院 活動報告

副院長兼患者支援センター長 **甲賀 英明** (こうが ひであき)

日頃より当院の地域医療連携に格別なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

地域医療支援病院は、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的とし、地域に必要な医療を確保することを目的としています。

医療連携(紹介率、逆紹介率)、救急医療の提供、医療機器の共同利用、地域の医療従事者に対する研修、退院調整部門の設置、地域医療連携パスの普及が求められています。

このための具体的な方策として、

- ①「可能な限り受け入れる」救急医療への取り組み、受け入れ率の向上、受け入れ不能例の検証を行っています。
- ②地域医療連携=顔の見える関係を目指します。患者紹介に対する返書を徹底します。
- ③患者支援センターを設置し、よりスムーズな入院退院支援を進めます。
- ④地域連携クリティカル・パスをより一層推進していきます。
- ⑤地域住民への情報発信(広報誌ささえあい)を積極的に行います。

昨年度実績として、地域医療支援病院紹介率は61.2%、逆紹介率は90.8%、登録医は241医療機関265名でした。

今後も地域医療機関とより一層の連携を推進してまいりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



	平成30年度	令和元年度	前年比
入院1日平均患者数	326.8人	314.3人	-12.5人
病床利用率	77.7%	78.8%	1.1%
救急車受け入れ数(年間統計)	4,712件	4,566件	-146件
地域医療支援病院紹介率	55.6%	61.2%	5.6%
地域医療支援病院逆紹介率	79.2%	90.8%	11.6%
外来1日平均患者数	819.2人	756.9人	-62.3人
登録医状況	237医療機関 254名	241医療機関 265名	4医療機関 11名
大腿骨頸部骨折地域連携パス	57人	58人	1人
脳卒中地域連携パス	38人	52人	14人
5大がん地域連携パス	34人	37人	3人
地域医療従事者への研修	30回	23回	-7回

## 病院の理念 地域住民から信頼される医療

- 基本方針**
- 1 患者さんの権利と意思を尊重し、患者本位の医療を提供します。
  - 2 地域中核病院として、救急医療、高度専門医療の充実に努めます。
  - 3 地域の医療・介護・保健機関と密接な連携を行います。
  - 4 次世代の医療従事者の教育・研修に貢献します。



# 日本輸血・細胞治療学会

輸血機能評価認定制度施設として認定されました。



【輸血機能評価認定(I&A)シンボルマーク】

## 日本輸血・細胞治療学会I&Aとは

日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価(I&A)は、学会がInspection(点検)してAccreditation(認証)するシステムです。適切な輸血管理が行われているか否かを、学会が点検し、決められた認定基準を満たすことができれば、学会から認証(日本輸血・細胞治療学会による輸血医療に対する安全性の保証)をいただくことができます。

当院では、「より安全かつ適正な輸血療法」を実施するため、輸血療法委員会を中心に活動を行い、今回認定を受けました。

認定期間は、2020年4月1日から2025年3月31日までとなります。



## I&A認定について、検査室長に伺いました

この度、当院が日本輸血・細胞治療学会よりI&Aに認定されましたので報告致します。

I&Aは、日本輸血・細胞治療学会が輸血に関する全ての業務が適正かつ安全であるかどうかを審査するものです。

当院検査室においては、1998年より血液製剤の一元管理を開始し、適正管理と適正輸血を心掛けて参りました。昨年8月20日に申し込みを行い、準備期間を経て2020年1月21日に訪問審査を受け、5月15日に認定を受けることが出来ました。

輸血行為は医師の判断の元に血液型検査や輸血の指示を下し、臨床検査技師が検査を実施してから医師へ検査結果を返すことにより始まります。輸血そのものは、医師あるいは看護師が患者さんに直接関与するわけですが、輸血に至るまでの血液型検査や他人の血液との適合検査、血液製剤の管理、そして安全確保のプロセスは、今日において臨床検査技師に委ねられていると言っても過言ではありません。輸血検査に関わる部分は、臨床検査技師が医師へ助言できる数少ない業務でもあります。

I&A認定は、我々医療スタッフが一丸となり取得したものでありますが、これに甘んじることなく進歩し続けていきたいと思えます。また、これは同時に患者さんに対し安全かつ適切な輸血医療を約束する気持ちでもあります。

## 2019年 血液製剤使用実績

赤血球製剤	4,088単位
血小板製剤	10,315単位 (うちHLA適合血小板製剤 220単位)
新鮮凍結血漿製剤	450単位
アルブミン製剤	11,487.5g (3829 単位相当)

## 検査室の紹介

現時点においても、新型コロナウイルス感染症の話題が尽きませんが、この感染症の流行に伴ってPCR(核酸増幅検査)という検査名が世の中に知れ渡りました。それと同時に、我々の職種である臨床検査技師という名も少しだけ認知されることになりました。普段、医療ドラマの中でもあまり陽の目を見ることのない職種ですが、患者さんと当院検査室の関わりは、乳幼児を含む採血、心電図検査を含む生理機能検査から始まり、専門性の高い病理細胞診検査・細菌検査・輸血検査、そしてPCR検査(当院ではLAMP法で、PCR法は外注)などを含む検体検査など広範囲に及んでいます。

検査室の理念は「迅速かつ正確なデータの提供」であり、個人々が上記にあるような様々な専門性の高い認定資格の取得を目指しながら、日々患者さんの為に業務を遂行しております。

患者さんと接する機会があるのはほんのごく一部のスタッフだけですが、病院理念でもあります「地域住民から信頼される医療」の気持ちで検査を実施させていただいております。どうぞよろしくお願い致します。